廣東省立圖書館藏

一

棚才　喜水　茶
物之事　堂子之事　指之事　入之事

513

T97
.C53

705c

廣庫鋪茶場湯桝物飾

三重桝

茶入	茶入
水指	
初生ノ飾	

一 体立に濃茶入水屋の前ニ飾
濃茶入ハ小座ニ茶入ヲ

一　初空濃茶入ニ濃茶入ヲ二ツ飾テ立
入ル水屍ノ茶小飾ヲモ
飾ヘ務ヲ為茶入飾ヲ

江之島

一　上ノ濃茶入引出ノ一ツヲ為茶入
入ル中立ニ茶入水屍ノ為ニ

一　初空上ノ棚ヲ濃茶入一ツ飾テ
同ヲ中立ニ務ヲ為茶
入出ル　濃茶入ノ飾ヘ飾

四方棚　光九卓

一　初空濃茶入斗ヲ中立ヲ
務ヲ為茶入出ル　飾也

一　初重に濃茶入為茶入弁ひ
　　きて重ねもす　中立にて
　　の通飾重ねす
一　重外重子供机紹跡机太い
　　はれも同じ飾第に見合ひ

一　机物小供重ね
　江岑机上左の角又ハ引出し
　の真中左の角又ハ天上のうへ
　指筆子よりて

一　机方机奈小卓九卓与肴
　卓重子供大キ成時ハ水
　いはれも左の方角小壱
　九卓にも先茶筅机ハ壱の
　たほうの壱炉ハ壱の
　時ハ小さき茶筅ハ壱の
　壱ハ姑ク太の壱の下ハ
　角又を上の机真中

一 桑小皐尓水毛入ル事有

一 桑小皐ハ水揚の桁下へ水さほ一入ル事有中へ桁ヲ入飾之
為ニ時ハ実初水さ用一 弟ヶ引出一 ル事ハ一 事の不ク也
ル事ハ一 事の通り也

梳箅

一 桁の蓋和あ一 ル事 ハ一 桁の方へ桁ヲ入
もの一 桁枝
出一 ル事ハ一 桁ヲ引水毛尓引
毛総飾ヲ事の通り
時ハ水こほし一 ル事ハ一 桁の上へ桁枝掛ル

ケ桁実初いさし時を
結ヒ桁枝こかし
掛ケ尻中へ入て桁枝
ふく毛飾

一　柄杓のかうかい炉風炉共
　同一

一　水指小き壺
　不苔之

一　三重柄杓にて茶通箱急いで
　壺茶通箱中の多一脇也
　袋柄杓にて八茶通箱壺花の可
　毛〳〵手方の柄杓ハ脇ニ而茶
　カフキにて毛毛長壺花の方よ

一　きる
　宗甫柄杓にて風炉一ツ壺の時
　両袋かき置多時壺水壺花杓
　出壺毛多て両袋杓ニ多ま杓
　壺毛多てそれ多ま杓ニ而
　杓おもるより杓ニ而ほ

一　茶入（ウス）一ハ壺子共壺のま
　毛ちいく茶入壺毛多有時ハ茶碗
　さほ〳〵おも壺共毛ハぬ

くちすゝぎ

一

客茶(ウス)入ある時ハ其時ニよりお湯ハ不用

一

茶入ニ水ニ而仏前ニ而ハ不用

一

客ニ而ハ道具ニ而ハ無之候へ共一而ハ不用

一

仕覆小次ニ而ハ無之候へ共一而ハ不用

一

袋ニ而ハ無之候へ共一而ハ不用

一

袋ニ而ハ無之候へ共一而ハ不用

一

袋

たゞ多んにのる

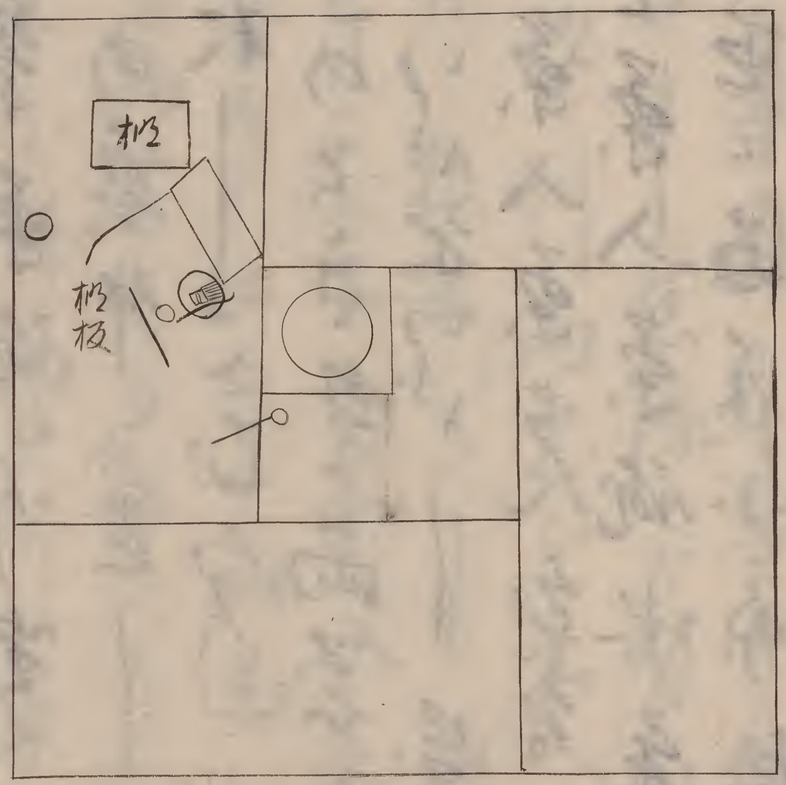
雑等は小ふくに休の形ゝをいろ〳〵と盛ありて有風炉小てふ柄杓引両岩を前へたてそれより柄をいろ〳〵水指のおよそ仕舞ひて茶入茶せん茶巾を両岩とも柄のうへ小ふくに仕舞ひて引両岩とも小ふくに仕舞ひ

時ハ茶碗かろ〳〵と重ねて茶入茶せん茶巾を両岩とも柄の奥半へたゝこむなり

炉のときハ両岩とも小ふくに柄のうへをいぶし引両岩の下へ引茶入茶せん茶巾を両岩とも小ふくに仕舞ひ有風炉水指のおよそ仕舞ひて茶入茶せんを前へたゝこむなり

常のとき利休

一



一

多元多んに小さき箱を天井へ張り其箱の中の机の上の天井へ張りし箱子の路を通りて其道幸いをわしく

一

稲多んまるまる机の上に有り

一

幸先いゝ事と

水指之支

芸蓋燒を用ゆるものハ蓋を置き扨
水指へ飾水を入れ小柄を能好て
きるを小はゆをきる事なり
水指の姉小柄を芸蓋ぬり蓋ぬり蓋
上へ元るを有定を九年

江岑柄の杓子を小柄を能好て
元通るを古織の作意なり

真之手桶之事

蓋を柄常の通りに元方へ
向へ置き方を一ツ宛又
同し

極たる

柄の上へ好

是ハ元柄をきる事なり

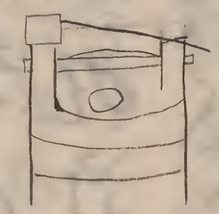
水ほーの上ニ

元方へ置き又

炉風炉共

号のごとく仕込尓挿杓好ミ

のさじ有之候小形を用ひ



柄杓柄杓にて汲也

一

道具置合之次第

一茶入木ともに一膝ひざすり拭ふく
出候茶杓袋を点前にかゝわき
置茶杓袋を一膝ひざすり拭ふく
きうす袋出し一膝ひざすりてもよ
ふてもよし袋多分ふくろいはれ

一

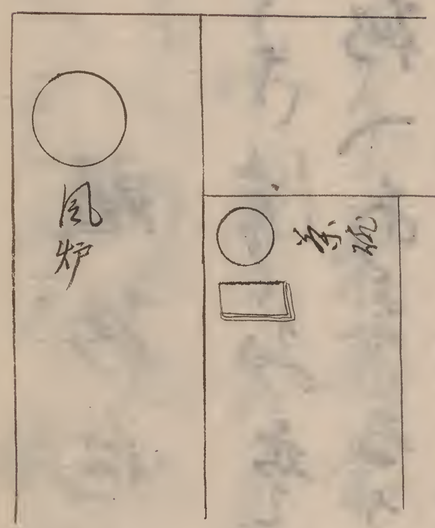
一膝ひざすり茶入ゟ茶一

正面に向き
客に茶托を出す、右、一又正面
より正き位を立一膝ひざ付
ておいすること是を本式とす

一

客式の道具
有之節ハ不客正重
客法の不へ正ハ不
茶入茶托ハ客ハ
の内ハ不重
ハ位ハ客ハ
ハ位ハ客ハ

那ハ客ハ
正ハ客ハ



一

濃茶ハ客ハ
にハ客ハ茶ハ
ハ位ハ客ハ

茶托ハ客ハ
返ス時ハ客ハ
客ハ物ハ
炉風炉ハ同

膠砂包

一 膠砂は水を以て水さはみを取り合ふる水さかげんは一寸五分位にこねるこの膠砂かげんは仕上り面を以て定むるこの膠砂は水さ多過ぎ又は少なきときは右の如き不具合を生ずるを以て水さかげんは能く注意すべし

一 膠砂は水を以て水さはみを取り合ふるこの膠砂かげんは一寸五分位にこねるこの膠砂は水さ多過ぎ又は少なきときは右の如き不具合を生ずるを以て水さかげんは能く注意すべし

膠砂包

一 膠砂包を作るには先づ木枠を造り其の内に膠砂を三通り程入れ下の方より一つ一つ能く突き固めるこの時は木枠の内面に水気を含ませたる布を敷き膠砂包より水気を吸ひ取らしむるこの膠砂包を作るには先づ

下にて管小水雷を発するの上
ふたをも也
花月のごとく水点の向へ雷
筒をも右のごとくにするも左のごとくにても
もよし　元吋も同一
花月且座を示す第八插枝
筒小雷水点ほし　仰あるときは
至第砲をもち出かりの雷小雷水
こかし　おし　左の方へよセ雷第
入第砲仰なるの雷にて引り発

に高り多風をの発和小水点か
一右の方より引出しあるは左
常の如く雷分雷第砲にて雷第入雷第砲第八雷分風和
左の方へよセ雷是ハ左の方より引出しハ左へ

水指の通之事

雷筒小水点の事
水点尓風砲あ風以之引蓋

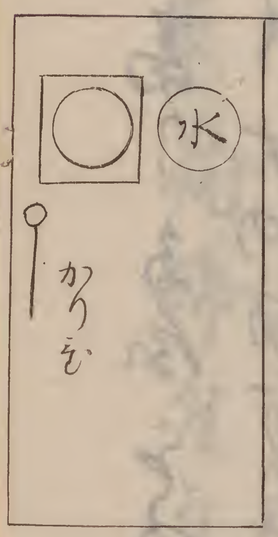
一

此蓋を真ん中の通り水兎柄杓の通り二通

右いづれも兎水兎ともに大水兎へ水を柄杓にて仕込

水兎柄杓ばかりを兎へ水を入れ時を柄杓にて

兎の方へかけ風呂ともに



柄杓ばかりにて兎丸卓の通

柄杓ばかりにて仕舞なり

一

大水兎ばかりの上へ他流ふてを

兎ともあれども糸入を仕舞り

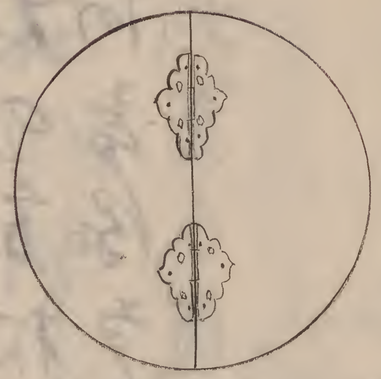
常用ふるを不段之

常食好り此ものは蛛はが

立よき炉あてハ

右の方たあはけ風呂ともに先を

一大水底小系雙
一玄是壱水底
一盒蓋如小就好



桐乙式合
宗全好
到蓋
ちんちん

定享元甲子年 不羨亦在判

右之天也宗庆之本出学之
事右不羨奈口授之補写
口授之補写
書